

# 第2次渋川市観光基本計画

群馬県渋川市

## ごあいさつ

地域にある資源をいかし、様々な産業や雇用に有効な影響を与える観光産業は、急速な人口減少社会を迎えた日本において、極めて重要な成長分野とされています。

渋川市には、日本の名湯伊香保温泉を筆頭に良質な温泉資源、群馬県が誇る赤城・榛名の二峰と雄大な利根川がはぐくむ豊かな自然、それらの風土や気候をいかした豊富な農畜産物、古くから交通の要所として栄え今もなお確保されたアクセス網、四季折々を通じて楽しめる多様な観光資源、先人達から今に伝わる歴史と文化など、観光地としての魅力を備える資源が数多くあります。そして何よりも、古くから多くの観光客を受け入れてきた、おもてなしの心が根付いています。

本市が持つこれら大きな価値は、外国人旅行客の増加や、アクセス交通のさらなる充実など、新たに生まれる交流機会を確実に捉え、これまで以上に、地域の活力向上につながるものと期待します。

本市の地域資源を効果的にいかすため、市や観光関係者、そして市民が連携して観光地域づくりを進め、地域の活力として発展すべく、第2次渋川市総合計画の分野別計画として、この「第2次渋川市観光基本計画」は策定されました。

旅行者から選ばれ心地よい空間を提供することは、市民が住んで心地よいまちをつくることであり、本市の将来像である「やすらぎとふれあいに満ちた“ほっと”なまち」を市民の皆さまとともに、そして多くの観光客の皆さまとともに築いていきたいと考えています。

そして、市民の皆さまには誇りを持って「住んでよかった」と、観光客の皆さまには心から「訪れてよかった、また来たい」、さらには「住んでみたい」と思っただけのまちづくりを進めます。

結びに、本計画の基礎調査に協力していただきました高崎経済大学南ゼミの皆様や、計画の策定に議論を重ねていただきました「渋川市観光基本計画策定委員会」の皆様をはじめ、ご尽力を賜りました全ての方々から感謝申し上げます。



渋川市長 高木 勉

<b>第1章 計画の策定にあたって</b> .....	1
1節 計画策定の趣旨 .....	1
2節 観光を取り巻く背景 .....	1
(1) 国及び県の状況 .....	1
(2) 渋川市の状況 .....	2
3節 観光振興の意義 .....	3
(1) 人口減少社会の到来 .....	3
(2) 観光がもたらす経済効果 .....	4
(3) 地域への誇りと愛着の醸成、地域資源の保全のための手段 .....	6
4節 計画の位置づけ .....	6
5節 計画の期間及び見直し .....	6
<b>第2章 渋川市の観光の現状</b> .....	7
1節 観光を取り巻く現状 .....	7
2節 渋川市観光の現状 .....	9
(1) 渋川市の地勢 .....	9
(2) 「渋川市観光基本計画」の取組と考察 .....	10
(3) 計画期間中の観光客数・消費額等 .....	13
(4) 今後の新たな変化 .....	15
3節 渋川市の観光に関する分析 .....	16
(1) 地域条件の抽出 .....	16
(2) 地域条件の分析 .....	18
(3) 現状分析の総括 .....	19
<b>第3章 第2次渋川市観光基本計画</b> .....	21
1節 計画コンセプトの構築 .....	21
2節 計画実現に向けた展開 .....	25
(1) 基本方針と施策の体系 .....	25
(2) 施策の展開 .....	26
<b>第4章 計画の推進</b> .....	35
1節 計画の推進体制 .....	35
(1) 市民や各種団体との協働による推進 .....	35
(2) 各主体の役割イメージ .....	35
(3) 計画のフォローアップ .....	35
2節 主要事業とスケジュール .....	36

### 1節 計画策定の趣旨

渋川市は、“日本の名湯”とうたわれる伊香保温泉をはじめとした豊富で良質な温泉、恵まれた自然環境、農産物、さらには、名所・旧跡や祭り、伝統芸能、観光施設など、観光地としての多くの資源を有しています。これら観光資源の有効活用、体系的な施策の展開を図るため、市では平成20（2008）年度に計画期間を10年間とする「渋川市観光基本計画」（以下、「前計画」という。）を策定し、観光振興を推進してきました。

前計画は、平成29（2017）年度に計画期間の終了を迎えることとなりますが、引き続き、国等の新たな観光施策への適切な対応や、旅行形態の変化、旅行ニーズの多様化に柔軟に対応した、新たな観光の魅力づくりや観光戦略が求められています。

このようなことから、前計画の検証、観光振興における課題や地域条件の抽出等を行うとともに、観光を取り巻く情勢の変化に適切に対応し、平成30（2018）年度から計画期間となる第2次渋川市総合計画との整合を図りつつ、本市の観光振興施策の総合的かつ計画的な推進により一層取り組むため、「第2次渋川市観光基本計画」（以下、「本計画」という。）を策定するものです。

### 2節 観光を取り巻く背景

#### （1）国及び県の状況

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、50年後、日本の人口は現在の1億2,700万人から8,800万人に減り、国の活力を支える生産年齢（15歳～64歳）人口も7,730万人から4,530万人へと大幅な減少が見込まれています。

政府は、宿泊や交通、旅行業にとどまらず、小売業や製造業、農林水産業など、幅広い業種への経済効果が期待できる観光産業が、人口減少・少子高齢化が進む日本において持続的な成長に必要な戦略の一つと考えています。

近年では、平成18（2006）年度に制定された「観光立国推進基本法」により、観光が21世紀における日本の重要な政策の柱として位置づけられ、平成23（2011）年度には「観光立国推進基本計画」を策定し、観光を成長戦略の柱の一つとし、今後さら

なる飛躍をするため、「観光の裾野の拡大」と「観光の質の向上」を掲げました。

また、平成 27（2015）年度には、「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、訪日外国人旅行客数を平成 42（2030）年には、平成 27（2015）年の約 3 倍の 6,000 万人、訪日外国人旅行消費額を約 3 倍の 15 兆円と目標設定するなど、観光を成長戦略と地方創生の大きな柱に位置づけています。

人口減少社会に伴う中長期的な国内旅行市場の規模縮小が予測されるなか、平成 28（2016）年には訪日外国人旅行者数が年間 2,400 万人に達し、今後もさらなる増加が期待されています。特に、平成 31（2019）年にはラグビーワールドカップ、平成 32（2020）年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しているなど、観光立国の実現に力強い追い風となっています。

また、平成 27（2015）年度に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」では、観光振興を戦略的に推進する専門的な組織としての日本版 DMO の確立とともに、地域資源及び観光産業の付加価値の向上による地域経済の活性化を図ることが重要であるとしています。

群馬県においては、国の取組を踏まえ、魅力ある観光地づくり、戦略的な情報発信、海外からの誘客促進、物産振興と食の魅力向上を基本理念に掲げ、平成 28（2016）年に群馬県観光振興計画「はばたけ群馬観光プラン」を策定し、観光振興を推進しています。

## （2）渋川市の状況

本市では、前計画の後期計画策定後の「富岡製糸場の世界文化遺産登録」や「北陸新幹線の開通」などの大きな環境の変化に対応するため、渋川市観光戦略会議を設置し、

【「明日の日本を支える観光ビジョン」定量目標】

	H32(2020)	H42(2030)
訪日外国人旅行者数	4,000万人 (約2倍)	6,000万人 (約3倍)
訪日外国人旅行消費額	8兆円 (約2倍)	15兆円 (約3倍)
地方部での外国人延べ宿泊者数	7,000万人泊 (3倍弱)	1億3,000万人泊 (5倍超)
外国人リピーター数	2,400万人 (約2倍)	3,600万人 (約3倍)
日本人国内旅行消費額	21兆円 (約5%増)	22兆円 (約10%増)

※ 括弧内は H27（2015）比又は最近 5 年間の平均比

具体的な取組方策と「伊香保温泉への年間宿泊者数 140 万人」の数値目標を掲げる提言書をいただきました。

これらを踏まえ、国内においては、富岡市や富山県砺波市との都市交流を積極的に推進しています。また、成長が著しいインバウンド（外国人旅行者誘致）では、台湾彰化県の員林市や社頭郷、高雄市大樹区との友好協力協定を締結して交流を進めています。このほか、関東運輸局が平成 32（2020）年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、関東における外国人旅行者の受入環境の整備及び関東の国際的な認知度の向上を目的として設立した「関東観光広域連携事業推進協議会」に加入し、広域観光周遊ルート形成促進事業の広域観光拠点地区への指定を目指しています。

また、渋川伊香保温泉観光協会が日本版DMOの創設に向けた取組を進めており、これとの連携を図ります。

**【DMO】とは**

「Destination Management/Marketing Organization」の略。日本版DMOは、観光関係者のほかに、農業や金融など地域の多様な業種によって組織される、観光地づくりの舵取り役を担う法人のこと。

### 3 節 観光振興の意義

#### (1) 人口減少社会の到来

日本全国はもとより、特に地方において急激に進行する「人口減少問題」は、少子高齢化もあいまって、労働生産性の低下や都市活力の低下、地域コミュニティや相互扶助による社会保障システムの維持に支障を来すおそれがあるなど、行政運営に直結する問題として喫緊の課題となっており、過度な人口減少が続いた場合には深刻な財政危機に陥る危険性もはらんでいます。

平成 26（2014）年 5 月には、有識者で構成される政策発信組織「日本創成会議」が発表した「消滅可能性都市」が大きな話題となりましたが、同会議は地方の人口減少の最大の要因を、東京圏を中心とする大都市への若者の流出と指摘し、人の流れを変え、大都市集中に歯止めをかける対策の必要性を提言しています。

そして、その対策の一つは、地方の産業を振興し、大都市との経済・雇用の格差を縮めることであり、地域にある資源をいかした産業振興として、他産業への経済波及効果や雇用の誘発効果に優れた観光産業が、政府が打ち出す「地方創生」の中でも極めて重要な成長分野として位置づけられています。このことから国は、地方創生の理

念等を定めた「まち・ひと・しごと創生法案」と、地域活性化に取り組む地方自治体を国が一体的に支援する「地域再生法の一部を改正する法律案」の地方創生関連2法案を成立させ、具体的なアプローチを開始しました。

このような流れを受け、本市では、平成27(2015)年度に「渋川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と、その指針となる「渋川市人口ビジョン」を策定し、交流人口の拡大を目指す“「ひと」の流れづくり”を総合戦略の基本目標の一つとして掲げ、まち・ひと・しごと創生に向けた取組を推進しています。

## (2) 観光がもたらす経済効果

観光庁の推計によると、外国人旅行者10人、国内旅行者(宿泊)26人、国内旅行者(日帰り)83人のそれぞれの消費額は、定住人口1人当たりの年間消費額(124万円)に相当するとされており、旅行消費などの経済効果で定住人口の減少分を補完することが期待されています。

本市においても、平成28(2016)年度中に宿泊客1,163,807人、日帰り客3,638,243人の入り込みがありましたが、「群馬県産業連関表」の計数を用いた経済波及効果分析ツールによる試算では、この宿泊等の需要に対して、656億円の生産誘発額が確認され、対個人サービス業のほか、交通等の運輸業、飲食料品業、農林水産業、石油業など多方面にわたる波及効果から、「裾野の広い産業」としての特性がうかがえるところです。

### 【観光交流人口増大の経済効果】

定住人口の減少分  
1人当たり年間消費額=124万円



外国人旅行者 10人分  
1人1回当たり消費額=13万7千円

または

国内旅行者(宿泊) 26人分  
1人1回当たり消費額=4万8千円

または

国内旅行者(日帰り) 83人分  
1人1回当たり消費額=1万5千円

出典：観光庁資料

### 【経済波及効果の測定結果】

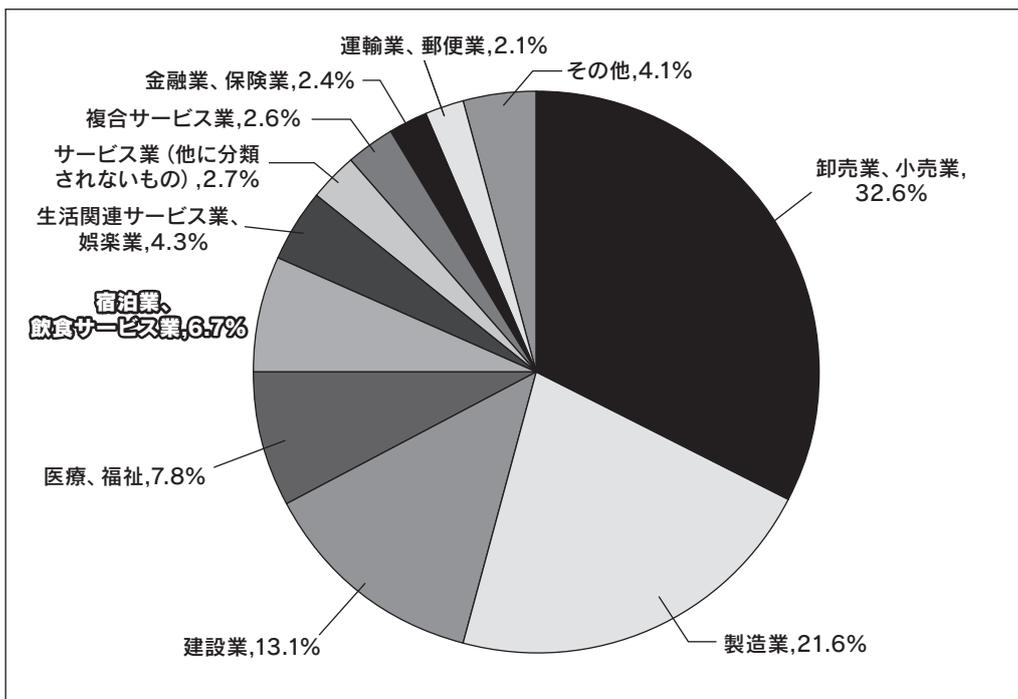
種 別	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	合計(総合効果)	効果倍率
生産誘発額(百万円)	42,317	13,137	10,173	65,628	1.55
粗付加価値誘発額(百万円)	22,539	7,212	6,545	36,297	
雇用者所得誘発額(百万円)	12,447	3,633	2,420	18,499	
就業誘発者数(人)	5,664	1,207	819	7,690	

(平成23(2011)年群馬県産業連関表を用いた経済波及効果分析ツールによる)

また、「平成24年経済センサス-活動調査」(総務省・経済産業省)によると、本市の宿泊業、飲食サービス業の平成24(2012)年売上高(企業単位)は、約204億円で市全体の6.7%となっており、本市において主要な産業の一翼を担っていることがうかがえます。

【平成24(2012)年 渋川市売上高(企業単位・大分類)】

産業分類	売上高(百万円)	割合
卸売業、小売業	99,889	32.6%
製造業	66,015	21.6%
建設業	40,230	13.1%
医療、福祉	24,010	7.8%
<b>宿泊業、飲食サービス業</b>	<b>20,434</b>	<b>6.7%</b>
生活関連サービス業、娯楽業	13,307	4.3%
サービス業(他に分類されないもの)	8,331	2.7%
複合サービス業	7,998	2.6%
金融業、保険業	7,233	2.4%
運輸業、郵便業	6,423	2.1%
その他	12,675	4.1%
売上高計	306,545	



(総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」再編加工・RESAS利用)

### (3) 地域への誇りと愛着の醸成、地域資源の保全のための手段

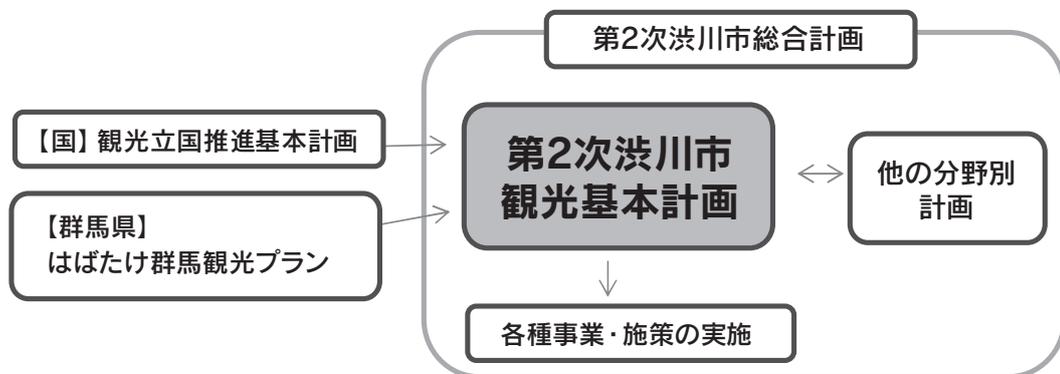
観光は、地域の伝統的な行祭事への参加など地域を知る機会の提供の場でもあり、自らの地域の魅力を再認識し、古く先人達から守り、引き継がれた地域、自然や歴史、文化などの魅力を、観光客に評価や満足をいただくことで、地域への誇りと愛着を醸成してくれるものでもあります。

このことは、住民と観光客の双方に配慮した地域、魅力的な観光地の形成につながり、さらに住み良いまちづくりに寄与します。

## 4節 計画の位置づけ

「本計画」は、「第2次渋川市総合計画」を最上位計画とし、観光の観点から、その実現に向けての有効な政策を定めるとともに、他の政策・計画との連携・連動を図ります。

また、観光立国推進基本計画をはじめとする国の各種指針、群馬県観光振興計画である「はばたけ群馬観光プラン」の動向を注視し、協調を図ります。



## 5節 計画の期間及び見直し

「本計画」の計画期間は、国、県等の新たな取組や変化の早い観光状況に的確に対応するため、平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5年間とし、観光を取り巻く情勢の変化に応じて見直しを行います。

## 1 節 観光を取り巻く現状

今日の旅行形態は、価値観の多様化やライフスタイルの変化に伴い、団体から個人へと大きく変化し、個人旅行が全体の8割以上を占めています。個人旅行の割合が増えるなか

で、旅行は「誰と行くか」によって内容が左右されるものになっています。

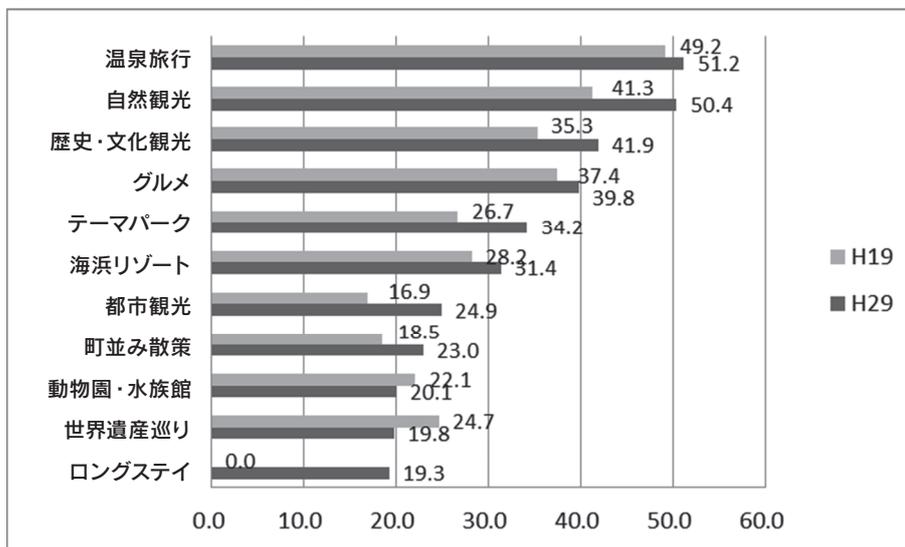
また、今後行ってみたい旅行タイプの調査では、「温泉旅行」を筆頭に、「自然観光」、「歴史・文化観光」の順に続き、「テーマパーク」や「都市観光」については10年前と比較して大きく上昇しており、旅行の動機では、「旅先のおいしいものを求めて」、「日常生活から解放されるため」が続いています。

【旅行形態別に見るシェア（H27・2015）】

旅行形態	市場区分	割合(%)	
個人旅行	個人で実施する観光旅行	50.9	82.3
	帰省や家事のための旅行	14.0	
	出張や業務旅行	17.4	
団体旅行	組織が募集する団体旅行	6.3	11.8
	会社がらみの団体旅行	5.5	
その他旅行		5.9	5.9

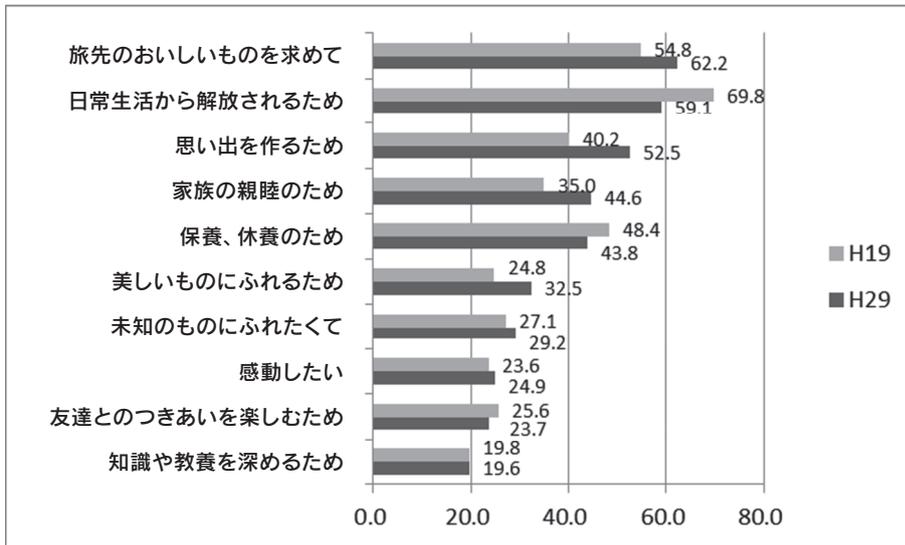
出典：(公財)日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

【行ってみたい旅行タイプ】(単位：%)



資料：(公財)日本交通公社「JTBF旅行需要調査」一部抜粋

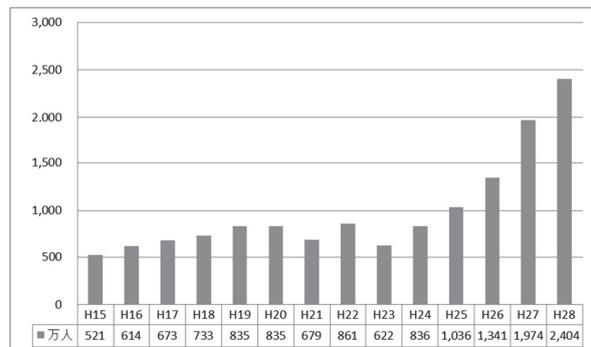
【旅行の動機】(単位：%)



資料：(公財)日本交通公社「JTBF旅行需要調査」一部抜粋

また、訪日外国人旅行者については、諸外国の経済成長や日本のビザ発給緩和により、ここ数年で倍増し、今後ますます増加することが予想されています。

【訪日外国人旅行者数の推移】



資料：日本政府観光局

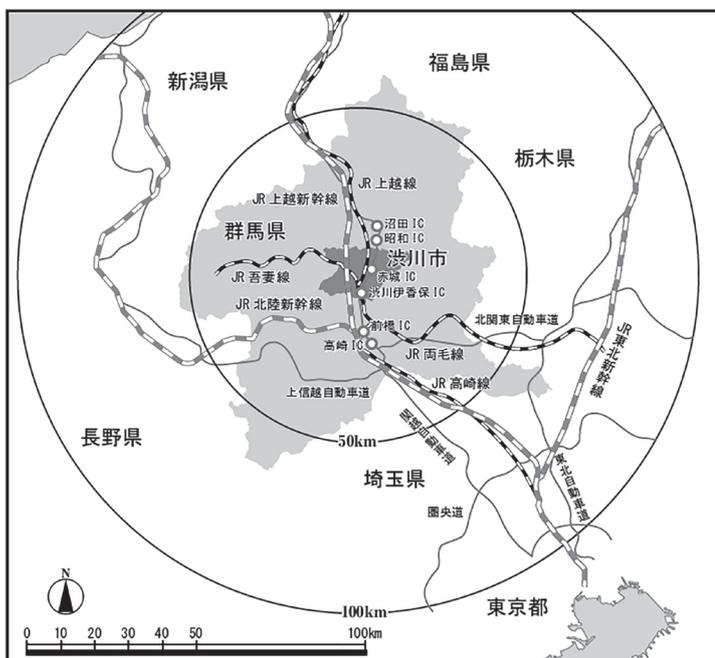
## 2節 渋川市観光の現状

### (1) 渋川市の地勢

本市は、日本そして群馬県のほぼ中央部、雄大な関東平野の始まる位置にあたり、古くから交通の要衝として栄え、豊富な水資源をいかした工業、山地の開拓による農業や、首都圏の奥座敷となる観光・温泉などを主要産業としてきました。

市内には鉄道、路線バスなどの公共交通と、関越自動車道の渋川伊香保インターチェンジ、赤城インターチェンジ、国道17号・353号があり、交流拠点機能が確保されているとともに、東京都心から高速道路利用で約2時間、新幹線及びJR上越線利用で約1時間10分の距離にあります。

地形は東に赤城山、西には榛名山といった群馬県の誇る上毛三山の二峰を有し、北は子持山、小野子山に抱かれています。利根川と吾妻川の流れによって形成された谷地とともに、標高差が1,400メートル以上となる起伏に富んだ地形を有していることから、夏の避暑や秋の紅葉など、四季折々に様々な景色を魅せています。



## (2) 「渋川市観光基本計画」の取組と考察

本市では、平成 20（2008）年度に策定した前計画に基づき、伊香保温泉を拠点とし、市域の観光資源のネットワーク化を推進し、市全域への誘客と地域の産業振興につなげるための各種施策を推進してきました。

### ① 基本理念

前計画では、温泉観光地として全国的な知名度を誇る伊香保温泉を観光拠点と位置付け、景観に配慮した温泉街の整備や既存施設の利便性の向上により一層の活性化を図る必要があること、また、観光拠点である伊香保温泉と市内の各地域を結び、点在する観光資源とのネットワーク化を図ることで、本市を訪れる観光客の周遊性が高められ、交流人口の増大や地域産業振興につながり、総合的な相乗効果が期待されることから、本市の観光基本理念を「伊香保温泉を核として、市域の観光資源のネットワーク化を推進する」としました。

### ② 基本方針と基本施策の各種取組、考察等

また、基本理念の実現に向けて、5つの基本方針を定め、各種取組を実施してきました。

それぞれの取組内容等は、以下のとおりです。

基本方針	基本施策	方向性	取組内容、考察等
「もてる」観光資源を発掘し磨く	環境・景観に配慮した観光の推進	豊かな自然環境と景観に配慮しながら、四季折々の花などを観光資源として活用し、登山や花木鑑賞など、エコツーリズムの促進による観光振興を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山道やキャンプ場等の維持管理を継続して実施することで、観光客は年々増加傾向にあり、誘客促進につなげることができた。</li> <li>小野池あじさい公園をはじめ、四季の花を楽しめる観光資源をいかした誘客については、具体的な検討をするまでには至らなかった。</li> </ul>
	歴史・伝統を重視した観光の推進	本市の文化財や伝統芸能を観光資源として活用し観光振興を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史や伝統を重視した祭りを実施することで、観光客は年々増加にあり、誘客促進につなげることができた。</li> <li>白井城址や黒井峯遺跡、その他観光資源となり得る遺跡の磨き上げについては今後の課題とする。</li> </ul>
	既存施設を活用した観光の推進	温泉施設や、公園施設、文化施設などを有効利用し、健康志向ニーズにあった利活用などの促進による観光振興を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日帰り温泉施設や宿泊施設等の既存施設の維持管理を継続して実施し、誘客促進につなげることができた。</li> <li>都市構造や行財政構造が大きく変化したことから、温泉施設のあり方について市の方針を定めた。</li> </ul>

基本方針	基本施策	方向性	取組内容、考察等
「楽しみ」 誇れる仕掛けをつくる	イベントを中心とした観光の推進	各種イベントで集客を図り、地域の魅力向上に努めます。また、スポーツの全国大会などを誘致し、交流人口の拡大を推進し、PR及び誘客を図ります。	・継続実施により、地域にイベントを定着させることができたが、入り込み客数が減少傾向にあるイベントもあり、効果の検証や見直しをする必要がある。
	産業と連携した観光の推進	地場産業と観光を連携させ、「食」を活用した観光の推進を図ります。また、安心安全な農産物を提供するため、独自の農法に基づく農産物のブランド化を図ります。	・特産物や農産物をPRすることで、物産や地場産業の振興を図った。 ・学校での認証農作物（しぶせん農作物）収穫体験を実施することにより、利用拡大や認知度向上を図った。 ・PRだけではなく、産業と連携した企画づくりなど、より効果的に展開する必要がある。
	広域連携による観光の推進	近隣市町村や伊香保温泉と関係の深い富岡市などと連携することで、さらなる誘客の促進を図ります。	・周辺市町村と連携を図り、誘客を促進した。 ・JR吾妻線の利用者は減少しており、さらなる連携による活性化が必要。
「誇れる」魅力を知らせる	情報発信による観光の推進	市と渋川伊香保温泉観光協会が連携し、市内の観光資源に関する情報を集約し、幅広い範囲にわたり情報提供することにより、誘客の促進を図ります。	・テレビやラジオによる情報発信のほか、観光案内所での観光客への的確な情報提供等、観光の推進を行った。 ・インターネットやSNS等を活用したタイムリーな情報発信手法や、観光大使の効果的な活用方法の検討が必要。
	利便性を高める観光情報の提供	スマートフォンやSNSなどを活用し、快適で利便性の高い観光情報を提供するとともに、観光案内板の整備を行います。	・観光案内板の整備やSNSによる情報発信などの情報提供を行った。 ・既存案内板の有効性を調査・整理し、観光客のニーズを捉えた、効果的な情報発信の手段や内容を検討する必要がある。
「温かく」充分なおもてなしをする	おもてなしの人づくり	おもてなしの心が住民全体に浸透し、何度でも訪れたいと思われる観光地づくりを促進するため、市民参加型の観光ガイドなどの人材育成を支援します。	・観光案内、観光施設の維持管理を行い、地域イメージの向上に取り組んだ。 ・観光ボランティアガイド間の連携を強化する必要がある。
	伊香保温泉の魅力向上	伊香保温泉のさらなる魅力を高めるため、景観の整備などを推進します。また、渋川伊香保温泉観光協会などと連携し、魅力の向上を図っていきます。	・ロープウェイ等伊香保温泉周辺施設や、源泉の維持管理を行い、魅力向上に努めた。 ・伊香保温泉再生事業で整備した施設等の維持管理費の増加や経年劣化する施設整備への対応、イベント開催時の駐車場確保が課題。
	交通・交流の促進による観光の推進	駐車場や観光案内板の整備をはじめ、アクセス網整備や公共交通機関・タクシー利用による市内観光の利便性の向上を推進します。	・駅を起点に周遊を楽しむための企画や、交通広告を実施することで交流人口の拡大を図った。 ・観光客が快適に市内を周遊できるよう、利便性向上のための方策を具体的に検討する必要がある。
「魅力的」で国際的な観光地とする	外国人観光客誘致の推進	県とともに、国際的イベントやコンベンションなどの誘致活動を通じ、本市の知名度向上とインバウンドの充実を図ります。	・県との連携、友好姉妹都市との交流を継続することで、外国人観光客誘致を推進した。 ・トップセールスや友好姉妹都市による観光への効果を、より具現化していく必要がある。
	外国人観光客への対応力強化	外国語版のパンフレットを活用し誘致活動を推進するとともに、研修会を通じて、外国人観光客が安心して観光を楽しめる体制づくりを図ります。	・外国語パンフレットの配布や、外国語観光ボランティアガイドの育成などを実施し、外国人観光客の対応強化を図った。 ・外国語観光ボランティアガイドの実動に向け、人材育成を継続していく必要がある。

### ③ 計画目標

前計画では、計画に基づく施策を着実に推進し、平成 29（2017）年度には本市への年間観光客数を 510 万人、宿泊者数 136 万人とすることを目指しました。

#### < 前計画期間中の観光客数及び宿泊者数の推移 >

	平成 20 年度 (2008)	平成 21 年度 (2009)	平成 22 年度 (2010)	平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)
観光客数	483 万人	476 万人	470 万人	485 万人	483 万人	462 万人
宿泊者数	119 万人	111 万人	110 万人	115 万人	117 万人	114 万人

※H23.3 東日本大震災

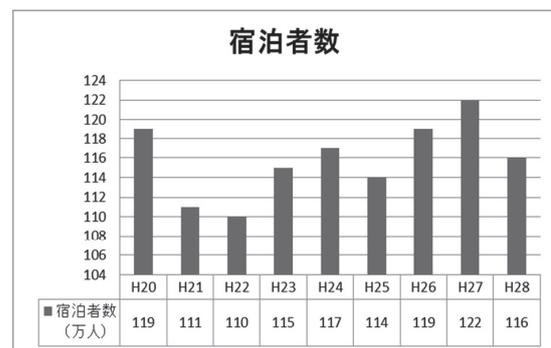
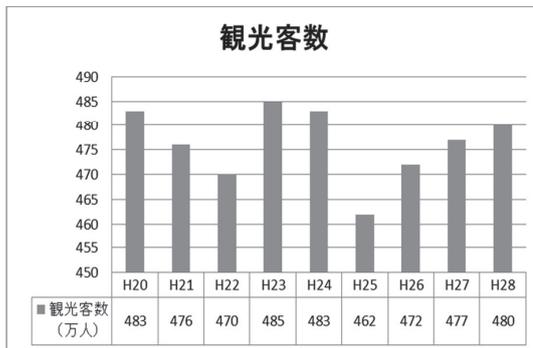
※H26.2 大雪

	平成 26 年度 (2014)	平成 27 年度 (2015)	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	目標値	目標達成率
観光客数	472 万人	477 万人	480 万人	—	510 万人	94. 1%
宿泊者数	119 万人	122 万人	116 万人	—	136 万人	85. 3%

※H26.4 増税

※H27 旅行券発行

※「目標達成率」は、H28を対象としています。



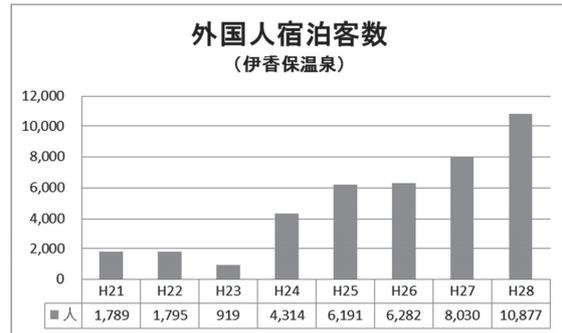
計画期間中には、平成 23（2011）年 3 月の東日本大震災、平成 26（2014）年 2 月の記録的大雪、平成 26（2014）年 4 月からの消費税増税など、観光消費動向を大きく左右する要因が立て続けに発生しました。

観光客数及び宿泊者数ともに、計画目標を達成することはできませんでした（対平成 28（2016）年度実績）が、観光客数は全体としては平成 25（2013）年度以降、緩やかに増加傾向にあり、宿泊者数は増減を繰り返しています。

### (3) 計画期間中の観光客数・消費額等

#### ① 外国人宿泊客数の推移

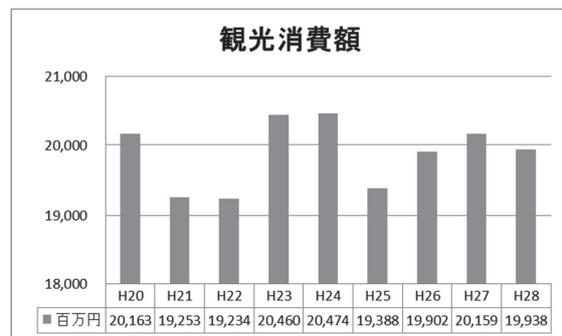
平成 21 (2009) 年度の集計開始以降、その数は増加傾向にあります。



(資料：観光課統計)

#### ② 観光消費額の推移

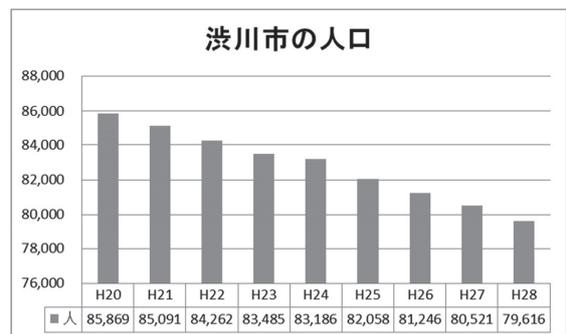
平成 20 (2008) 年度のリーマンショックの翌年や、平成 22 (2010) 年度に発生した東日本大震災、平成 25 (2013) 年度の豪雪などを受け、観光消費額も影響を受けましたが、概ね 200 億円前後で推移しています。



(資料：観光課統計)

#### ③ 渋川市の人口の推移

本市の人口は、年々減少傾向にあり、平成 20 (2008) 年度からの前計画期間内 (平成 20 (2008) 年度から平成 28 (2016) 年度の 9 年間) で約 6 千人減少しています。



(資料：住民基本台帳 各年 3 月 31 日)

④ 各年度地区別に見る観光客数、外国人宿泊客数、観光消費額の推移

地区別の観光客数は、以下のとおりです。  
伊香保、赤城、北橋地区は減少しているものの、子持地区は増加傾向にあります。

【各年度地区別に見る観光客数、外国人宿泊客数、観光消費額の推移】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
渋川地区(人)	1,196,845	1,167,925	1,224,946	1,329,175	1,308,065	1,180,146	1,240,865	1,123,057	1,198,742	
伊香保地区(人)	1,646,747	1,546,632	1,508,128	1,578,498	1,581,897	1,535,458	1,545,741	1,579,743	1,546,616	
小野上地区(人)	393,251	448,946	439,132	452,609	459,089	460,672	459,190	460,746	437,586	
子持地区(人)	578,392	587,438	597,372	578,759	587,133	585,468	618,069	722,833	747,095	
赤城地区(人)	707,255	690,194	638,157	626,820	616,596	592,924	584,730	603,896	610,222	
北橋地区(人)	309,605	318,558	295,833	286,965	278,783	262,117	275,433	275,650	261,789	
合計(人)	4,832,095	4,759,693	4,703,568	4,852,826	4,831,563	4,616,785	4,724,028	4,765,925	4,802,050	
宿泊・日帰り 内訳(人)	日帰り	3,645,980	3,646,616	3,599,964	3,703,124	3,663,268	3,474,991	3,538,908	3,542,117	3,638,243
	宿泊 (伊香保温泉)	1,186,115	1,113,077	1,103,604	1,149,702	1,168,295	1,141,794	1,185,120	1,223,808	1,163,807
外国人宿泊客数(人)	-	1,789	1,795	919	4,314	6,191	6,282	8,030	10,877	
市内観光消費額(千円)	20,163,085	19,253,106	19,234,374	20,459,776	20,474,352	19,388,344	19,902,077	20,159,053	19,937,846	

(資料：観光課統計)

⑤ 各年度月別に見る観光客数の推移

月別に見る観光客数の推移は以下のとおりです。  
例年5月、8月の観光客は多く、2月は少なくなっています。

【各年度月別に見る観光客数の推移(人)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H20	427,404	468,902	373,907	403,712	549,283	358,544	429,266	429,264	347,237	342,685	318,001	383,890	4,832,095
H21	421,250	482,883	363,317	409,679	500,254	410,860	427,429	402,218	339,751	339,351	303,653	359,048	4,759,693
H22	414,656	501,521	374,915	423,374	587,377	369,807	424,930	415,355	347,921	327,435	309,650	206,627	4,703,568
H23	321,956	490,464	371,298	410,307	627,005	415,726	490,164	400,770	333,831	339,478	293,955	357,872	4,852,826
H24	430,153	483,841	372,771	419,860	603,037	377,107	407,112	399,338	334,177	328,092	304,403	371,672	4,831,563
H25	429,559	491,939	382,969	411,340	491,253	367,308	389,046	416,704	348,384	334,823	207,710	345,750	4,616,785
H26	394,468	465,920	345,619	377,585	593,164	375,591	389,294	422,016	324,653	337,477	309,274	388,967	4,724,028
H27	418,095	514,245	367,401	415,147	480,487	409,513	423,881	385,661	337,992	323,329	301,893	388,281	4,765,925
H28	405,062	480,668	338,335	469,164	603,249	350,838	412,647	391,791	347,859	322,819	288,878	390,740	4,802,050

(資料：観光課統計)

## ⑥ 年度毎に見る観光分類別の推移

年度毎の観光分類別入り込み客数は以下のとおりです。

赤城自然園の観光客受入や、伊香保森林公園の算入により「自然」は大きく伸びています。「行祭事・イベント」は、渋川山車まつりの隔年開催の影響を受けることから、以下の増減があります。

【各年度別に見る観光分類別の推移（人）】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
自然	75,868	94,286	131,656	146,011	154,433	147,266	133,792	138,478	140,414
歴史・文化	577,528	573,422	527,055	612,722	645,144	595,177	529,180	528,931	465,549
温泉・健康	2,641,839	2,631,424	2,504,416	2,491,273	2,542,252	2,486,161	2,567,216	2,635,211	2,506,395
スポーツ・レクリエーション	266,624	261,134	255,883	274,806	269,060	287,485	292,594	292,366	300,823
都市型観光	1,129,098	1,090,974	1,077,124	1,052,027	1,014,989	999,616	999,853	1,078,353	1,074,563
行祭事・イベント	141,138	108,453	207,434	275,987	205,685	101,080	201,393	92,586	314,306
合計	4,832,095	4,759,693	4,703,568	4,852,826	4,831,563	4,616,785	4,724,028	4,765,925	4,802,050

（資料：観光課統計）

【自然】 赤城自然園、伊香保森林公園、桜等の花祭り

【歴史・文化】 観光施設等

【温泉・健康】 入浴施設（日帰り、宿泊を含む）

【スポーツ・レクリエーション】 ロープウェイ、スカイランドパーク 等

【都市型観光】 道の駅、直売所 等

【行祭事・イベント】 渋川へそ祭り、渋川山車まつり（隔年開催）、花と緑のぐんまづくり 2011 in 渋川（H23） 等

## （4）今後の新たな変化

本市の観光に影響のあることが予想される変化としては、以下のものがあげられます。

事項	時期	影響
佛光山法水寺開山	H30(2018)/4	・外国人（特に台湾）誘客の増 ・観光入り込み客数の増
赤城自然園の通年開園 （春～秋連続開園・冬期は週末のみ開園）	H30(2018)	・赤城山麓の観光入り込み客数の増
上信自動車道（吾妻軸）開通	H31(2019)	・吾妻、草津方面への観光客の流出 ・国道 353 号線沿線施設の利用者減
群馬県コンベンション施設開設	H32(2020)	・アフターコンベンション需要等の増

### 3節 渋川市の観光に関する分析

#### (1) 地域条件の抽出

渋川市の観光の現状に関する分析（SWOT（※1）分析等を用いた地域の強みや弱み、社会動向や外部要件の調整）を、以下のとおり示します。

内部要因	<p><b>① 強み(「S」=strengths)：目標達成に貢献する地域の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部から、車で約2時間、鉄道では1時間10分とアクセスが良く、高速道路が南北、東西方向に走っており、関東圏のみならず信越、北陸方面からの到達性も良い。</li> <li>・利根川が南北に縦断し、その両側には上毛三山のうちの二峰がそびえる景勝の地であり、両山麓に広がる豊かな自然と、多様な観光資源が存在する。</li> <li>・恵まれた環境が育む地場の農産品や、地域資源をいかした物産が数多くある。</li> <li>・アルテナードを中心に多くの文化芸術施設が立地しており、また、金井遺跡群をはじめとする歴史遺産を数多く有する。</li> <li>・伊香保温泉には、硫酸塩泉の「黄金の湯」と、無色の単純温泉「白銀の湯」があり、「美人の湯」とされる「小野上温泉」など、市内各所に良質な温泉がある。</li> </ul> <p>&lt;伊香保温泉&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古くからの歴史を今に伝える由緒ある温泉地である。</li> <li>・交通条件の良さから、首都圏の奥座敷、また群馬県の奥座敷でもある。</li> <li>・「日本三大石段」である石段街が温泉地のシンボル空間となっている。</li> <li>・北側の子持・小野子山や谷川連峰方面の眺望が優れている。</li> <li>・ハワイアンフェスティバル等、体験参加型イベントが充実している。</li> <li>・100人以上収容可能な会議室をもつ宿泊施設が複数ありMICE（※2）需要に対応できる。</li> </ul>
	<p><b>② 弱み(「W」=weaknesses)：目標達成の障害となる地域の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地商業が低迷し、まち歩きの魅力が弱い。</li> <li>・水沢うどん、湯の花饅頭以外の“食”の知名度が低い。</li> <li>・赤城山西麓の観光資源は、周辺地区との連携がなく、また、いかされていない。</li> <li>・観光資源間のアクセスが確保されていない。</li> <li>・市街地、伊香保ともに夜の街に魅力が感じられない。</li> <li>・「伊香保」のブランド力を、渋川市として十分いかせていない。</li> </ul> <p>&lt;伊香保温泉&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急斜面が多いため、まちなかの散策が容易ではなく、バリアフリー化が難しい。</li> <li>・道路の融雪対策はとられているものの、十分認知されていない。</li> <li>・温泉街の核であるはずの石段街の街並みが、看板等も含め景観に配慮されていない。</li> <li>・サイン等の外国語表記が見られない。</li> <li>・ゆかりのある文人墨客の学術施設等が、本市との結びつきや伊香保温泉の歴史文化性を語る役割を十分に果たせていない。</li> <li>・観光従事者の高齢化や人手不足が問題となっている。</li> <li>・市や観光協会など、従来の手法による情報発信（ホームページ、パンフレット等）が、時代のニーズに合わず、旅行の目的地を決定するに当たっての情報源としていかされていない。</li> </ul>

<b>外的環境</b>	<p><b>③ 機会(「O」=opportunities)：目標達成に貢献する外部の特質</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光産業を発展させようとする国の動きがある。</li> <li>・気軽な日帰り旅行である都市観光、まちなか観光へのニーズは拡大している。</li> <li>・外国人旅行客が増加傾向にある。</li> <li>・自然志向、癒しや保養休養志向の人々が増加傾向にある。</li> <li>・高齢化社会に伴い、健康志向が高まる傾向にあり、また、歴史、文化、芸術志向の観光客が増加している。</li> <li>・“温泉ブーム”は根強く続いており、今後も安定需要が期待できる。</li> <li>・農業、レジャーなど体験型観光と、環境を意識した観光の需要が高まっている。</li> <li>・北関東道の開通により栃木・茨城県からの来訪者が増加している。</li> <li>・圏央道の東名高速との接続により、神奈川県方面からの誘客拡大が進んでいる。</li> <li>・外郭環状線の東名方向への延伸に伴って、世田谷、目黒地域や横浜、川崎方面の人口集中地域からの誘客拡大が期待できる。</li> <li>・伊香保温泉は、群馬県コンベンション施設（高崎市内、H32(2020)開設）から50分圏内にある。</li> <li>・渋川伊香保温泉観光協会を主体とした日本版DMOの創設。</li> <li>・佛光山法水寺開山（H30(2018).4）。</li> <li>・赤城自然園の通年開園。</li> </ul>
	<p><b>④ 脅威(「T」=threats)：目標達成の障害となる外部の特質</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか観光を志向している県内都市は数多い。</li> <li>・海外の観光地との美的景観の隔たりが問題視される傾向がある。</li> <li>・草津や箱根など、群馬県内や関東圏に競合する温泉地が多数存在する。</li> <li>・宴会目的の団体客が減少し、保養休養志向の個人宿泊客への転換が進んでいる。</li> <li>・1人当たりの国内宿泊観光回数、宿泊数が減少している。</li> <li>・上信自動車道の整備推進に伴い、競合温泉地がさらに増加する。</li> <li>・日帰り観光客が増加傾向にあり、連泊や滞在化が進まない。</li> </ul>

※1 SWOT分析とは

地域などの内的要因や外部環境を、強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリーで評価し、その相互関係や想定される状況変化を考慮しつつ戦略・戦術を構築する、地域資源の最適活用を図る手法。

※2 MICEとは

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

## (2) 地域条件の分析

(1) の地域条件の抽出で得られた特徴、特質を、今後の戦略、戦術として整理します。

整理に当たっては、①強みと②弱みに分け、③機会と④脅威という特質をどういかしていくかという視点から行います。

※「○」は渋川市全域について示し、「●」は伊香保温泉を中心にかかわることを示す。

<b>A 積極的攻勢：強みと機会の相乗効果を狙う（①強み×③機会）</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○歩いて快適で美しいまちづくりを進めつつ、芸術を渋川市の個性とした、まちなか観光を推進する。</li><li>●首都圏の都市住民に対し、伊香保の歴史・文化、榛名・赤城山麓の自然環境、谷川連峰の山並景観等をアピールし、さらに多様な滞在条件を整えて、癒しや保養休養のための観光地づくりを進める。</li><li>●首都圏や前橋・高崎の奥座敷として、週末の余暇需要やMICE客、ハレの場となるパーティーや宴会需要等の誘致を図る。</li></ul>
<b>B 差別化戦略：強みをいかし差別化を図る（①強み×④脅威）</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○赤城山麓のレクリエーション資源の利用を促進する。</li><li>○文化と芸術が根付く「伊香保温泉」のブランド力を、市全域でいかしていく。</li><li>●温泉地内部での移動ルートや移動手段の充実を図る。</li><li>●学術施設を中心に、伊香保温泉の歴史文化を集約、発信し、歴史文化資源の更なる活用を行う。</li></ul>
<b>C 段階的施策：弱みを克服しつつ機会をいかす（②弱み×③機会）</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○赤城西麓の観光資源をいかすため、赤城山エリアを所管する他の自治体、団体等と連携し、集客を図る。</li><li>○二次交通の充実や、観光周遊ルートの利活用を図る。</li><li>○DMOを中心に、サービスの向上、一元的な情報発信、戦略の共有を行う。</li><li>●幅広い世代が楽しめる夜のまちの魅力づくりと、夜景の演出、地元関係者の景観意識の向上を図る。</li></ul>
<b>D 防衛策：徹底的な守りを図る（②弱み×④脅威）</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○県内主要都市との近接性をいかして、群馬県民の日帰り入浴や飲食にも積極的に対応する。</li><li>●一次交通の乗換駅である、高崎駅からの迅速かつ快適なアクセス手段の整備を進める。</li></ul>

### (3) 現状分析の総括

地域条件の分析結果等を用いて、渋川市の観光振興の将来像に資する地域条件の分析結果について、課題を含めて以下のとおりまとめました。

分析項目	主な分析内容
観光への広域的な要請	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の他の温泉地との差異を明確化することにより、群馬県の温泉地全体を盛り上げる相乗効果に結びつける。</li> <li>・ 多くの文人墨客に愛され、県内で最も古い歴史と文化を有する温泉地として、群馬県の温泉地のイメージリーダーとしての役割が期待される。</li> </ul>
観光に対する地域要請	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋川市のイメージ、ブランド力向上に伊香保温泉を結びつけたい。</li> <li>・ 四季折々の自然景観や歴史と文化、豊富な農畜産物など、地域の人々による努力で集積された、地域資源のさらなる活用への期待。</li> <li>・ 赤城山観光の玄関口としての赤城西麓地区への立ち寄りによる観光の促進が望まれる。</li> <li>・ 余暇を楽しむのは観光客だけではなく、市民に対しても重要なことから、観光に対する地域住民の意識の醸成と、観光を核としたまちづくりを創出したい。</li> <li>・ 市の財源の投資が厳しく、取り組むべき施策の精査が必要。</li> </ul>
観光資源の分析評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伊香保温泉の歴史を伝える石段とそこを流れ落ちる黄金の湯は、伊香保の歴史性を伝える重要な役割を担っている。</li> <li>・ 首都圏から2時間圏内に立地し、日常の喧騒から解放される癒しの空間を提供できる。</li> <li>・ 徳富蘆花記念文学館、竹久夢二伊香保記念館、ハワイ公使別邸など、伊香保と関わりの深い文化人などの遺功を伝える施設が整備されているものの、伊香保温泉との強い結びつきや伊香保温泉の歴史文化性を語る役割を果たせていない。</li> <li>・ 赤城山麓から榛名山麓にかけて観光資源が分散しており、二次交通での周遊に利便性を欠く。</li> </ul>

分析項目	主な分析内容
<b>関連資源や地域条件のポテンシャル分析評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏からの往復のアクセス路や立ち寄り資源の提示方法が十分ではない。</li> <li>・水沢うどん、湯の花饅頭以外の“食”の知名度が低い。</li> <li>・石段街やその周辺の面的な整備や、商業・飲食の集積、景観の弱さが、まち歩きの魅力を欠いている。</li> <li>・街中の休憩施設（雨天、避寒対応を含む）、情報提供施設の場所がわかりにくい。</li> <li>・DMOを中心に、一元的な情報発信、関係者の戦略の共有が可能となる。</li> </ul>
<b>社会条件や市場動向の分析</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の人口減、高齢化の進行により、国内での観光地間競争の激化が見込まれる。</li> <li>・アジアのマーケットが拡大する一方、日本の中間所得層の購買力は減少することが予想される。</li> <li>・国内旅行者は縮小傾向である一方、歴史的、文化的資源を保有する地域への旅行意欲の高さは高水準で推移している。</li> <li>・モバイル機器の利用率向上により、簡便に情報収集が可能となっており、かつ、SNS等を利用した臨場感ある情報共有の機会が拡大している。</li> </ul>
<b>競合条件の検討</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏から同一線上に位置する草津温泉との棲み分けが重要であり、泉質の違いや歴史文化性を強調する必要がある。 （伊香保温泉＝都市近郊型観光地／草津温泉＝自然型観光地）</li> </ul>

## 1節 計画コンセプトの構築

計画コンセプトは、現状分析の総括を再整理し、本市が進むべき将来の方向性とあり方（戦略）を取りまとめるものです。

“地域に誇りや活力が感じられる空間イメージ”や“来訪者の活動イメージ”、さらには“計画テーマ”を設定し、地域で共有できる戦略づくりを行います。

### 将来の空間イメージ

首都圏でも高い知名度を有する「伊香保温泉」の、多くの文人墨客にも愛された由緒ある歴史文化や、広大な榛名、赤城山麓そして利根川に育まれた明媚な自然環境や豊富な地域資源、農畜産物などをいかし、渋川市民はもとより首都圏内外の人々にも愛され、観光や保養休養客がたびたび訪れる“美しく魅力ある癒しの滞在環境”を創出する。

### 来訪者の活動イメージ

多くの群馬県民が観光やレクリエーション、宿泊、入浴、飲食等の多様な資源を有する渋川市を訪れる。また、保養休養志向の首都圏住民や国内外の旅行者は、渋川・伊香保の名湯や歴史文化資源、豊かな自然環境を求めてたびたび訪れる。さらには、渋川市街地にも音楽や野外アート、食や風景など、まちなか観光を楽しむために多くの人々が訪れ、市民や観光客が豊かな余暇を楽しみ商業の振興も進む。

## 計画テーマ

本市には、万葉の時代から伝わり、多くの文化人に愛された由緒ある伊香保温泉があり、今なお多くの人々を温めています。

この伊香保温泉が築いてきたブランド力を、赤城や榛名、利根川、多数の温泉という天然資源や、先人達が今に伝える歴史と文化、新鮮な農産物をはじめとする豊富な物産、首都圏からのアクセス性などといった、本市のもつ多くのポテンシャルと結びつけ、しぶかわのブランドとして活用していくため、本計画のテーマを以下のとおり設定します。

### **伊香保温泉を核としたしぶかわブランドの創出 ～豊かな自然がはぐくむ、歴史と文化あふれる 首都圏立地型観光地～**

## 主な誘致エリア

- ・ 県内及び首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木）
- ・ その他、上越・北陸新幹線沿線（新潟、石川、富山、長野）や中部圏、関西圏など
- ・ 海外（新たな交流機会拡大に対応すべく交通アクセスを確保していく）

## 主要なターゲット層

- ・ 保養休養志向の中高年層（夫婦、男性グループ、女性グループ）
- ・ 都市の自然志向のファミリー層
- ・ コンベンション客
- ・ 訪日及び国内在住の外国人

## 重点方針

### ○伊香保温泉のさらなる魅力向上

日本を代表する温泉地である伊香保温泉は、関東屈指の知名度と、多くの観光客の心身を癒やしてきた観光地としての歴史を有しています。

渋川観光の核となる伊香保温泉のさらなる魅力向上は、そのブランド力を市域でいかし、新たな地域ブランドの創出が期待されることから、夜の演出や景観、環境への配慮など観光資源としての魅力向上を目指します。

### ○地域の産業振興、活性化への貢献

交流人口の拡大は、地域経済や雇用への寄与、交通などのインフラの維持、さらには、地域の歴史や伝統を守り、地域に対する愛情と誇りをはぐくむ気運を醸成します。

豊富な農畜産物、恵まれた自然環境など、本市が誇る様々な地域資源を観光で活用することで、地域の保全や産業の振興を図ります。

また、渋川駅を中心に、市民に魅力的で豊かな余暇空間を提供し、まちなか観光による活性化を推進します。

### ○競合観光地との差別化、個性化

草津や箱根など、群馬県内や関東圏には、集客力のある温泉地が多数存在しており、競合する観光地との差別化・個性化が必要となります。

本市には、由緒ある伊香保温泉だけでなく、赤城・榛名の両山麓に広がる豊かな自然と、これに寄り添い、この地を愛した人々が築き上げた歴史と文化が根付いています。

今後は、大人口を抱える首都圏や日本各地からのアクセス性の良さをいかすとともに、地域特性へのさらなる理解や近隣自治体との連携により、様々な資源を観光にいかすことで、日本を代表する、個性と風格ある観光地づくりを目指します。

### ○時代の潮流をとらえた市場変化への対応

持続可能な観光地域づくりを形成するためには、経済や道路整備、国民の余暇志向や訪日観光客の動向など、観光に影響を与える様々な要素を分析し、将来への展望を描きつつ適切な観光地整備を進める必要があります。

国の政策や観光動態の把握と、観光地への評価などの情報収集を行うとともに、多様な主体との連携によるニーズに即した様々な情報発信を行い、競争力のある“選ばれる観光地”を目指します。

## 数値目標

事業・取組を推進していくうえで、計画の進捗状況を図る指標として、以下の数値目標を設定します。

目標項目	現状値(H28(2016)年度)	目標値(H34(2022)年度)
市内観光客数	480万人	529万人
	※第2次総合計画に掲げる数値目標であり、市の観光入り込み客統計に基づく	
市内宿泊者数 (うち、伊香保温泉)	116万人 (104万人)	155万人 (140万人)
	※第2次総合計画に掲げる数値目標であり、市の観光入り込み客統計に基づく	
観光周遊ルート設定数	12コース	17コース
	※第2次総合計画に掲げる数値目標であり、市内交通事業者等が実施する二次交通を利用した周遊ルート設定数に基づく	
伊香保温泉外国人宿泊者数	10,877人	21,900人
	※第2次総合計画に掲げる数値目標であり、市の観光入り込み客統計に基づく	
観光消費額	19,938百万円	22,815百万円
	※市の観光入り込み客統計に基づく	

## 2節 計画実現に向けた展開

### (1) 基本方針と施策の体系

「本計画」は、国及び県の動向の変化や、急増する外国人誘客への対応、マーケティング体制の充実など、時代の潮流をとらえた観光戦略の構築に向け、また、本市の観光振興の基盤となることを見据え、本計画の計画コンセプトを具現化するために必要とされる基本方針、基本施策を以下のとおりとします。

基本方針	基本施策	主要事業
Ⅰ 地域資源の魅力向上 (観光資源整備・充実施策)	①歴史と伝統、豊かな自然をいかした観光の推進	・ 四季の花や自然をいかした誘客 ・ 伊香保温泉の魅力向上
	②既存施設を活用した観光の推進	・ 渋川市総合公園等の維持管理 ・ アルテナード施設の利用促進
	③イベントを中心とした観光の推進	・ 渋川へそ祭りの実施 ・ 駅伝やマラソン大会の開催
	④産業と連携した観光の推進	・ 特産品及び物産品の振興 ・ 企業などとの連携による観光推進
Ⅱ 受入環境の整備 (観光基盤整備施策 ・ハード面)	①環境・景観に配慮した観光の推進	・ 黒井峯遺跡や金井遺跡群等の活用 ・ 上信自動車道整備に伴う道の駅の設置
	②交通・交流の促進による観光の推進	・ 二次交通の充実 ・ 観光周遊ルートの利活用
Ⅲ 人材育成・組織強化 (観光基盤整備施策 ・ソフト面)	①おもてなしの人・組織づくり	・ 市民と観光客の交流促進 ・ DMOと連携した観光地域づくり
Ⅳ 観光情報の充実と戦略的情報発信、プロモーション (誘致促進施策)	①広域連携による観光の推進	・ 広域連携による観光の推進 ・ 赤城山麓地域の利用促進
	②情報発信による観光の推進	・ 観光宣伝による情報発信の推進 ・ フィルムコミッションなどの 宣伝媒体研究
	③利便性を高める観光情報の提供	・ 新たな情報提供システムの構築 ・ 観光資源の評価等情報収集
Ⅴ 新たな交流機会に対応する誘客促進の取り組み	①外国人観光客誘致の推進	・ 海外との交流 ・ 観光宣伝海外トップセールス
	②外国人観光客への対応力強化	・ 外国語版パンフレットの活用 ・ 外国人観光客受入研修会の開催

## (2) 施策の展開

(「具体的な取組・事業」のうち「■」は現行計画からの継続事業、「□」は新規事業を示す)

### 【基本方針Ⅰ 地域資源の魅力向上】

本市の地域資源を観光にいかすため、資源を掘り起こし、磨き上げることで、魅力的な観光地として多くの観光客を呼び込み、観光消費を増加させます。

#### 基本施策1 歴史と伝統、豊かな自然をいかした観光の推進

(現状分析)

本市には、多くの文化財が存在し、伝統的な祭典や地芝居などの民俗芸能も多く残されているほか、群馬県の誇る上毛三山のうち、赤城・榛名の二峰を有し、四季折々の表情を見せる豊かな自然と、“日本の名湯”とされる由緒ある伊香保温泉があります。

これらの、地域に伝わる文化財や伝統、行事と、豊かな自然の恵みを再評価し、魅力ある観光資源としてさらに活用する必要があります。

また、多くの観光客に感動を与え、評価を受けることは、こうした貴重な財産を次世代に継承し、地域資源の保全にもつながります。

(方向性)

先人達の不断の努力により今に伝わる歴史と伝統、豊かな自然を活用し、持続的な観光振興の下支えとなるよう、各地区に受け継がれる歴史と伝統の保全と、資源の磨き上げによる魅力の向上を図ります。

#### (具体的な取組・事業)

- 子持白井宿八重ざくら祭りの実施
- 渋川山車まつりの実施
- 伊香保まつりの実施
- たちばな古里まつりの実施
- メープルヴィレッチこもち及び赤城キャンプ場の施設管理
- 四季の花や自然をいかした誘客
- 伊香保温泉の源泉管理
- 伊香保温泉の魅力向上

## 基本施策2 既存施設を活用した観光の推進

### (現状分析)

本市には、各所に泉質の異なる温泉施設があり、また、豊かな自然や文化と調和した公園、スポーツ、文化施設を有しています。

近年の気軽な日帰り旅行や、健康志向ニーズをとらえ、施設のさらなる有効利用を図り、既存施設の利活用などの促進による観光振興の推進が必要です。

### (方向性)

首都圏からのアクセス性や、市民が気軽に余暇を楽しむ空間をいかし、温泉施設や公園等の快適性、利便性を高めることで、持てる資源を活用・再評価した観光振興を推進します。

また、渋川市街地から伊香保を結ぶアルテナード関連施設の利用促進によるまち歩きの充実や、周遊性の向上を図り、交流人口の拡大を図ります。

### (具体的な取組・事業)

- 渋川市総合公園等の維持管理
- 日帰り温泉施設の維持管理
- 宿泊温泉施設の維持管理
- アルテナード施設の利用促進

## 基本施策3 イベントを中心とした観光の推進

### (現状分析)

本市には、市民が一体となって楽しめる「渋川へそ祭り」や、伊香保とハワイの歴史をつなぐ「ハワイアンフェスティバル」など、各種イベントが一年を通じて開催されています。

また、マラソン大会やトレイルランなどの全国規模のスポーツイベントや、「スカイランドパークナイトイベント」をはじめとする市民団体が主催するイベントが増えています。

今後は、体験参加型のイベントや、さらなる全国規模のイベントの誘致を積極的に行い、本市の特色をいかしたイベントによる観光振興が必要となります。

### (方向性)

イベントの魅力を引き出すため、イベント同士のタイアップや、イベントの仕掛けづくりを通じて、市民・観光客が一体となって楽しめる観光振興を推進します。

### (具体的な取組・事業)

- 渋川伊香保温泉観光協会による観光宣伝及びイベントの開催
- 渋川へそ祭りの実施
- イベントなどの誘致及び支援
- 駅伝やマラソン大会の開催
- スポーツ推進計画の推進による誘客

## 基本施策4 産業と連携した観光の推進

### (現状分析)

本市では、創作こけしをはじめとする工芸品や、国内で有数の栽培面積を誇るコンニャクのほか、畜産物や生鮮野菜に果物、それらをいかした商品など、高付加価値化された食に関する特産品が、数多くあります。

これらの工芸品や特産品などを、道の駅や農産物直売所、渋川駅前に開設された「しぶかわ名産品センター」などにより、多くの観光客に提供しています。

今後は、これら多くの特産品のさらなるブランド化を目指し、産業を積極的に活用した観光の推進が必要となります。

### (方向性)

地場産業と観光を連携させ、食や工芸品など、本市の物産を活用した観光の推進を図ります。また、農産物をはじめとする特産品のさらなる高付加価値化を目指し、地産地消の推進や、市場の拡大を図ります。

### (具体的な取組・事業)

- 特産品及び物産品の振興
- 「食」を活用した観光の推進
- 企業などとの連携による観光推進
- 道の駅、農産物直売所運営支援の実施
- グリーンツーリズムの推進
- 日本のまんなか渋川フルーツ酒特区を活用した観光推進

## 【基本方針Ⅱ 受入環境の整備】

来訪者が心地よく滞在し、過ごせる空間を提供するため、交通基盤や歩道、景観、看板等を整備し、安心して市内観光を楽しみ、来訪者の満足度向上につなげます。

### 基本施策1 環境・景観に配慮した観光の推進

#### (現状分析)

本市では、伊香保温泉をはじめ、古くから多くの方が訪れ、その時代に合わせた観光基盤を整備してきました。

“自然の癒し”が求められている現在では、登山・ハイキング・花木鑑賞など、本市の自然が満喫できる“エコツーリズム”への対応が必要です。

また、調査が進む金井遺跡群をはじめとする歴史遺産の活用と保全、上信自動車道整備に伴う観光への対応が期待されます。

#### (方向性)

豊かな自然環境と景観に配慮しながら、四季折々の花や木などを観光資源として活用し、エコツーリズムの促進による観光振興を推進します。

また、黒井峯遺跡や金井遺跡群などの古代東国文化歴史遺産をはじめとする歴史資源について、県や国と連携し、観光基盤としての活用による保全を目指します。

一方で、上信自動車道の整備に伴う道の駅設置により、基幹道路の活用による地元産業の活性化、広域的な観光情報発信拠点としての活用を検討します。

#### (具体的な取組・事業)

- 首都圏自然歩道の維持管理
- 登山道の環境整備
- 黒井峯遺跡や金井遺跡群等の活用
- 伊香保温泉観光施設の維持管理
- 上信自動車道整備に伴う道の駅の設置
- 環境に優しい観光地づくり

## 基本施策2 交通・交流の促進による観光の推進

### (現状分析)

観光客が目的地までスムーズに移動できるよう、交通環境の整備を行うことは、満足度や、再来訪意欲の向上につながります。

本市には、鉄道がJR上越線とJR吾妻線の2路線で市内に8駅あり、渋川駅を起点に、市内各地へ路線バス及びタクシーが運行しています。

このような状況を踏まえ、鉄道については、利用者の利便性の向上を図るための駅周辺の整備を行うとともに、利用者の増加を図るための公共交通機関や観光関係団体との連携を強化する必要があります。

また、自家用車や観光バス利用者への対応も重要です。

### (方向性)

本市を訪れた観光客が快適に市内を周遊できるよう、駐車場や観光案内板の整備をはじめ、観光資源間のアクセス網整備や公共交通機関・タクシー利用による市内観光の利便性の向上を推進します。併せて、伊香保温泉の玄関口である渋川駅や周辺の環境整備を行い、観光客だけではなく市民に対する余暇空間を提供し、鉄道の利用促進や駅を中心とした賑わいを創出します。

また、伊香保地区の駐車場を整備、維持管理を行い、自家用車や観光バスで訪れる観光客の利便性向上を図ります。

### (具体的な取組・事業)

- 観光案内板の整備
- 二次交通の充実
- 駅からハイキングの企画
- 渋川・吾妻地域在来線活性化協議会との連携
- 観光周遊ルートの特活用
- 駐車場の維持管理
- 渋川駅を中心とした賑わいの創出

## 【基本方針Ⅲ 人材育成・組織強化】

観光団体の組織強化や、観光ガイドの育成、市民と観光客の交流を促進し、市民参加型の観光地づくりを推進します。

### 基本施策1 おもてなしの人・組織づくり

#### (現状分析)

観光客からの評価が高く、何度でも訪れたいと思われる観光地は、おもてなしの心が住民全体に浸透し、地元の人々の人情や温かさが伝わる場所です。

現在、市民グループによる観光ボランティアガイドなどの活動が盛んになりつつありますが、今後はさらに、地域の特徴をいかして、市民参加型の観光地づくりを促進するとともに、市民と観光客が交流する場が必要となります。

また、時代の変化に対応した観光政策を推進するため、多様な関係者との連携、データの収集・分析による観光地域づくりが求められています。

#### (方向性)

地域の特徴をいかして活気あふれる市民参加型の観光地づくりを促進するため、地元をよく知る方々による観光ガイドなどの人材育成を支援するとともに、市民と観光客が交流する機会を提供し、市民によるおもてなし意識を啓発します。

また、渋川伊香保温泉観光協会を主体とする日本版DMOにより、次代を担う人材の育成と併せ、多様な主体との連携体制を強化し、地域の特性をいかした観光地域づくりと戦略的観光客誘致を可能とする、競争力のある観光地域づくりを推進します。

#### (具体的な取組・事業)

- 市民と観光客の交流促進
- 渋川広域ガイドの会連絡協議会との連携
- DMOと連携した観光地域づくり

## 【基本方針Ⅳ 観光情報の充実と戦略的情報発信、プロモーション】

本市の魅力を多くの人に知ってもらい、興味を持って訪れてもらうため、様々な媒体による宣伝、誘客活動を行います。

### 基本施策1 広域連携による観光の推進

(現状分析)

本市は、県のほぼ中央に位置し、都心からのアクセスの良さはもとより、赤城、榛名山麓という群馬県を代表する自然豊かな山々に抱かれており、また、明治の文豪徳富蘆花、一代で財閥を築いた浅野総一郎の縁でつながる自治体との交流や、全国の“へそ”でつながる「全国へそのまち協議会」加盟市町村との交流を行ってきました。

今後は、共通する地域資源を有する関連自治体との連携を密にし、さらなるPR、誘客促進が必要です。

(方向性)

近隣自治体と連携し、広域的な誘客促進を行うとともに、共通する資源をいかす関連自治体との交流を深め、情報共有を行うことで、観光資源としての磨き上げと、さらなる誘客促進を行います。

#### (具体的な取組・事業)

■ 広域連携による観光の推進

□ 赤城山麓地域の利用促進

### 基本施策2 情報発信による観光の推進

(現状分析)

観光のスタイルは、これまでの団体旅行中心の観光から個人や少人数の観光へと変化し、また、観光雑誌からインターネットによる情報収集へと変化しており、ターゲットや情報発信のスタイルが大きく変わりました。

今後は、この変化に対応し、関係者の連携のもと、ニーズに合わせた効果的な情報収集、提供方法が求められます。

また、多様なメディアにふれる機会を意識し、新たな情報発信方法の検討を行う必要があります。

(方向性)

渋川伊香保温泉観光協会と連携して、市内の観光資源に関する情報を集約し発信します。発信に当たっては、情報提供の内容や手段、媒体が、観光客やエージェント、マスコミなど、幅広い範囲にわたり利用しやすいものとなるよう、ニーズに応じた多様なツールやメディアを活用し、誘客の促進を図ります。

**(具体的な取組・事業)**

- 伊香保ビジターセンターの維持管理
- 伊香保温泉まちの駅の維持管理
- 観光宣伝による情報発信の推進
- 観光大使の選定・活用
- 観光案内所などの運営
- フィルムコミッションなどの宣伝媒体研究
- 渋川市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）

### 基本施策3 利便性を高める観光情報の提供

(現状分析)

昨今のスマートフォンの普及により、その場で観光情報や目的地までのルート情報を収集する利用者が増えています。

また、SNSの利用者増加に伴い、実際に観光に来ている瞬間そのものが情報発信の場へと変化しています。

このような動きのなか、スマートフォンの利便性を高めるとともに、SNSを有効に活用した情報収集、発信が求められています。

(方向性)

SNSなどを活用した観光情報の提供を推進するとともに、観光客自身による情報発信に配慮した環境を整備します。

また、観光動向がインターネット上の口コミに影響されることから、観光施設の評価に対する情報収集を行い、“選ばれる観光地”を目指した研究を行います。

**(具体的な取組・事業)**

- 新たな情報提供システムの構築
- 観光資源の評価等情報収集

## 【基本方針Ⅴ 新たな交流機会に対応する誘客促進の取り組み】

東京オリンピック・パラリンピック前後の動向を見据えた観光誘客に取り組むため、ターゲットを絞ったインバウンド戦略を推進し、対応力強化を目指します。

### 基本施策1 外国人観光客誘致の推進

(現状分析)

近年、訪日外国人の増加を受け、台湾を中心に本市を訪れる外国人旅行客が急増しています。また、平成30(2018)年4月には、台湾に本山がある佛光山が本市に法水寺を開山することから、台湾からの観光客が一段と増える見込まれています。

今後は、国や県をはじめ、訪日外国人の受入を行う各種団体と連携し、さらなる外国人観光客の誘致が求められています。

(方向性)

群馬県をはじめとする各種団体と協力し、また、本市の友好・姉妹都市などの交流関係をいかした誘客宣伝を実施することで、効果的な外国人観光客の誘致を行います。

#### (具体的な取組・事業)

- 群馬県観光物産国際協会などとのインバウンド強化連携
- 海外との交流
- 観光宣伝海外トップセールス

### 基本施策2 外国人観光客への対応力強化

(現状分析)

増加する外国人旅行客が、安心して市内観光を楽しみ、満足して帰国の途につくためには、パンフレットの整備や現地案内の整備が重要です。

このため、関連団体との連携や、市民の意識啓発のもと、おもてなしの心で受け入れ、外国人観光客が満足の得られる環境の整備が求められています。

(方向性)

市や観光協会で作成した外国語版の観光パンフレットなどを活用し、外国人観光客の誘致活動を推進するとともに、外国語観光ボランティアガイドの育成や、案内板の外国語表記への配慮など、外国人観光客が安心して市内観光を楽しめるような体制づくりを図ります。

#### (具体的な取組・事業)

- 外国語版パンフレットの活用
- 外国人観光客受入研修会の開催

## 1 節 計画の推進体制

### (1) 市民や各種団体との協働による推進

計画の推進にあたっては、基本方針に基づく各施策の主要事業を中心に進めるなかで、官民一体となった取組が重要となります。

市内では、観光協会や旅館組合、交通事業者、観光ボランティアガイド、農業生産者などの各種団体やコミュニティ組織が様々な分野で活躍しており、これらの関係者間で計画を共有し、目標達成に向けて一丸となって取り組み、持続性のある、地域に根付いた計画の推進を行います。

### (2) 各主体の役割イメージ

市民・市民団体	私たち一人ひとりが、その地域に根づく自然や歴史・文化など、豊かな地域資源の魅力を改めて認識、共有するとともに、その魅力の発信者となります。そして、自信をもって観光客を温かく迎え、交流を深めます。
観光協会・関係団体など	計画推進における主導的役割を担う組織として、関係団体との連携を図りつつ、おもてなしの心をもった従業員の接遇やサービスの向上に取り組み、観光PRの遂行やイベントの開催、市内観光情報の提供などに努めます。
観光事業者・生産者など	それぞれが持つ強みを再認識し、渋川市のオンリーワンの技術とサービスの創出を目指します。 また、周遊性を高めるための交通アクセスの利便性向上や、各種団体と地域とを結びつける主体的な役割を担います。
行政（市）	目的に応じて様々な関係団体と情報共有を行い、各取組主体と協力しながら、本計画の進捗を管理していくとともに、観光情報の収集と分析に努め、広範なPR活動により、渋川市の魅力を広く発信します。 また、関係部署や国・県・周辺市町村との連携を一層強化し観光施策の調整や推進を図るとともに、観光振興条例などのさらなる観光振興に資する施策の検討を進めます。

### (3) 計画のフォローアップ

施策の進捗状況や観光客の動向などを毎年点検するため、渋川市観光戦略会議などにより、施策の進捗状況や観光客の動向を報告するとともに、目標の達成状況等の検証を行い、必要に応じて計画の内容を見直します。

## 2節 主要事業とスケジュール

### 【基本方針射Ⅰ 地域資源の魅力向上】

#### 基本施策1 歴史と伝統・豊かな自然をいかした観光の推進

※取組主体は、該当する実施主体に○印、関係する主体に△印

事業名 事業内容	取組主体				スケジュール				
	市民 ・ 市民 団体	協会 ・ 関係 団体	事業者 ・ 生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
子持白井宿八重ざくら祭りの実施	○	△		○	継続				
歴史的景観の残る白井宿で武者行列をメインとした祭りを開催します。									
渋川山車まつりの実施	○			△	継続				
渋川市街地において、江戸時代から続く格式ある伝統の祭りを開催します。									
伊香保まつりの実施	○	○		△	継続				
伊香保石段街を中心に、伝統の神輿が練り歩きながら、秋の祭典を開催します。									
たちばな古里まつりの実施		○		△	継続				
北橋地区に伝わる橋山伝説にあやかった祭りを開催します。									
メープルヴィレッチこもち及び赤城キャンプ場の施設管理				○	継続		検討		
自然環境や森林浴を味わっていただける施設を管理します。また、施設のあり方について検討・調整を行います。									
四季の花や自然をいかした誘客	△	○		○	継続				
通年的に花などを楽しめるよう整備を行います。									
伊香保温泉の源泉管理		○		○	継続				
源泉安定供給のため「黄金の湯」への助成と「白銀の湯」の管理を行います。									
伊香保温泉の魅力向上		○	○	○	関係者による検討／実施				
シンボル空間である石段街をはじめ、伊香保温泉の魅力を磨き上げ、観光拠点として誘客性の向上を図ります。									

## 基本施策2 既存施設を活用した観光の推進

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
<b>浜川市総合公園等の維持管理</b> 公園を管理し、利用者の健康増進と世代間交流を図ります。			○	○	 継続				
<b>日帰り温泉施設の維持管理</b> 泉質の異なる豊富な天然資源を利用し、快適性を高めて誘客を図ります。また、指定管理施設については、観光施設等のあり方に関する基本方針に基づいた取組を進めます。		○	○	○	 継続／取組				
<b>宿泊温泉施設の維持管理</b> 天然温泉を有する手頃な料金の宿泊施設としての利便性を高めます。また、観光施設等のあり方に関する基本方針に基づいた取組を進めます。			○	○	 継続／取組				
<b>アルテナード施設の利用促進</b> アルテナード関連施設の情報を充実させ、まち歩きや、周遊性の向上を図ります。また、市美術館については、施設のリニューアルを行います。	○	○		○	 継続 リニューアル				

### 基本施策3 イベントを中心とした観光の推進

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
<b>渋川伊香保温泉観光協会による観光宣伝及びイベントの開催</b>	△	○	△	△					
観光ネットワークの創出と全国各地からの誘客を目的に、通年的な観光宣伝、イベントを実施します。									
<b>渋川へそ祭りの実施</b>	○	○	△	○					
日本のまんなかを広く周知する市民祭を開催します。									
<b>イベントなどの誘致及び支援</b>	△	○	△	○					
イベントの誘致や団体が実施する本市の特色をいかしたイベントを支援します。									
<b>駅伝やマラソン大会の開催</b>	△	○	△	○					
駅伝やマラソン大会などを開催し、スポーツ交流人口、観光誘客の拡大を図ります。									
<b>スポーツ推進計画の推進による誘客</b>	○	○	△	○					
スポーツ大会、イベント、合宿などを誘致し、スポーツ交流人口の拡大を推進します。									

## 基本施策4 産業と連携した観光の推進

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
特産品及び物産品の振興	△	○	△	△	継続				
<p>渋川広域圏の特産品及び物産品の展示販売を行い、物産振興を図ります。</p>									
「食」を活用した観光の推進		△	○	○	継続				
<p>地場産業と観光を連携させた「食」の特産品を活用した観光の推進を図ります。</p>									
企業などとの連携による観光推進		○	○	△	継続				
<p>工場見学や農業体験、フルーツ狩りなどの産業観光を推進します。</p>									
道の駅、農産物直売所運営支援の実施		○	△	△	継続				
<p>地場産業の振興及び地産地消の促進のため、道の駅、農産物直売所の運営支援を行います。</p>									
グリーンツーリズムの推進		○	○	△	継続				
<p>四季を通じた農産物の収穫体験を提供し、交流人口の増加と地場農産物を利用した農業の活性化を図ります。</p>									
日本のまんなか渋川フルーツ酒特区を活用した観光推進			○	△	継続				
<p>本市の特産果実などを活用した果実酒を醸造、販売し、地域産業の活性化、本市への誘客を促進します。</p>									

## 【基本方針Ⅱ 受入環境の整備】

### 基本施策1 環境・景観に配慮した観光の推進

事業名 事業内容	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
首都圏自然歩道の維持管理				○	→ 継続				
「関東ふれあいの道」の維持管理を行い、利用者の安全を確保します。									
登山道の環境整備			○	○	→ 継続				
案内板の整備や仮設トイレ、駐車場など、登山者が安心して利用できる施設を管理します。									
黒井峯遺跡や金井遺跡群等の活用		○		○	→ 継続				
黒井峯遺跡や金井遺跡群、白井城址などの整備・活用します。									
伊香保温泉観光施設の維持管理		△		○	→ 継続				
伊香保地区に設置してあるトイレ等の観光施設の維持管理を行います。									
上信自動車道整備に伴う道の駅の設置	○	○	○	○	→ 設計業務等	→ 用地買収造成	→ 建設		
上信自動車道の整備に伴い、基幹道路の活用による地元産業の活性化、広域的な観光情報発信拠点としての活用を検討します。									
環境に優しい観光地づくり	○	○	○	△	→ 継続／取組				
宿泊施設の充電スタンドを維持するとともに、温室効果ガス排出削減、ゴミ排出への配慮など、宿泊客に対する啓発など、様々なeco活動に取り組みます。									

## 基本施策2 交通・交流の促進による観光の推進

事業名 事業内容	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
観光案内板の整備				○	→ 継続				
市内の周遊性を高めるため、観光案内板を計画的、効果的に配置します。									
二次交通の充実		△	○	○	→ 継続				
交通事業者、観光関係者等との意見交換の場を設け、官民協働によりバスやタクシーなど二次交通機関の整備を推進します。また、ロープウェイの安全な運行を行います。									
駅からハイキングの企画			○	△	→ 継続				
駅を発着とした季節の花を巡るハイキングコースの企画により、鉄道利用者を中心とした誘客を図ります。									
渋川・吾妻地域在来線活性化協議会との連携		△	△	○	→ 継続				
渋川・吾妻地域のJR沿線の活性化を図り、鉄道利用による誘客を促進します。									
観光周遊ルート of 利活用		○	○	○	→ 実施				
交通事業者、観光関係者等の協力のもと、観光周遊ルートを創出・活用し、観光客の周遊利便性の向上を図ります。									
駐車場の維持管理				○	→ 実施	→ 拡充	→ 拡充		
伊香保地区の駐車場を整備、維持管理を行い、観光客の利便性向上を図ります。									
渋川駅を中心とした賑わいの創出	○	○	○	○	→ 検討	→ 実施			
渋川伊香保観光の玄関口である渋川駅や、周辺施設の整備を行い、イベントやまち歩き of 促進による賑わいの創出を図ります。									

## 【基本方針Ⅲ 人材育成・組織強化】

### 基本施策1 おもてなしの人・組織づくり

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
市民と観光客の交流促進	○	○	○	○	継続				
市内日帰り温泉施設の利用を通じて、市民と観光客が交流する機会を創造します。									
渋川広域ガイドの会連絡協議会との連携	○	○		○	継続				
市内に5つあるガイドの会の連携を促進し、おもてなし講座の開催やアドバイザーの養成を支援します。									
DMOと連携した観光地域づくり	○	○	○	○	DMO設置／地域連携				
関係する団体との連携体制を強化し、地域の特性をいかした観光地域づくりと戦略的観光客誘致を可能とする、競争力のある観光地域づくりを推進します。									

## 【基本方針Ⅳ 観光情報の充実と戦略的情報発信、プロモーション】

### 基本施策1 広域連携による観光の推進

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
広域連携による観光の推進		○	△	○	継続				
近隣自治体や本市と関係の深い自治体などと連携したイベント開催や観光PRの実施により、観光の推進を図ります。									
赤城山麓地域の利用促進		○	△	○	連携強化／実施				
赤城山麓の周辺自治体と連携し、赤城山観光の玄関口として、その周遊性をいかした観光を推進します。									

## 基本施策2 情報発信による観光の推進

事業名 事業内容	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
伊香保ビジターセンターの維持管理		○		○	継続				
多くの観光客に親しまれる、観光情報の発信拠点として管理運営します。									
伊香保温泉まちの駅の維持管理		△	△	○	継続				
「まちの駅」の維持管理及び各種展示・観光案内を実施します。									
観光宣伝による情報発信の推進		△		○	継続				
ラジオやテレビなどでの宣伝や、SNSなどの次世代媒体の活用による情報発信を推進します。									
観光大使の選定・活用				○	継続				
ゆかりのある各界著名人などを観光大使として選定し、各観光大使ならではの情報発信により、全国に向けて市の知名度アップを図ります。									
観光案内所などの運営		△		○	継続				
JR渋川駅構内や伊香保石段街において観光案内を行い、観光客の利便性向上に努めます。									
フィルムコミッションなどの宣伝媒体研究	○	○	△	○	継続				
本市が有する観光資源を、映画やテレビを媒体として宣伝する手法について研究します。									
渋川市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）			○	○	継続				
本市発展のために、より多くの方々にご支援、ご協力をいただけるよう、本市の特性をいかした返礼品の贈呈や、様々な媒体による情報発信を行います。									

### 基本施策3 利便性を高める観光情報の提供

事業名	取組主体				スケジュール				
事業内容	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
新たな情報提供システムの構築	○	△	△	○					
本市の魅力を発信する動画や、インターネット上での新たなサービスを活用した情報提供を行います。									
観光資源の評価等情報収集	○	△	△	○					
インターネット上の口コミなどの評価を収集し、“選ばれる観光地”を目指した研究を行います。									

## 【基本方針Ⅴ 新たな交流機会に対応する誘客促進の取り組み】

### 基本施策1 外国人観光客誘致の推進

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
群馬県観光物産国際協会などとのインバウンド強化連携		○	○	○	継続				
県観光物産国際協会と連携した外国人観光客の誘致を推進します。									
海外との交流		△		○	継続				
本市の友好・姉妹都市などの交流関係をいかした外国人観光客の誘致を推進します。									
観光宣伝海外トップセールス		△		○	継続		協定更新		
友好協力協定を締結した自治体との友好をさらに深め、市長自ら友好自治体からの誘客を促進します。									

### 基本施策2 外国人観光客への対応力強化

事業名	取組主体				スケジュール				
	市民・市民団体	協会・関係団体	事業者・生産者	行政	H30	H31	H32	H33	H34
外国語版パンフレットの活用		○		○	継続				
外国語観光パンフレットを活用し、外国人観光客への誘客宣伝及び対応力強化を図ります。									
外国人観光客受入研修会の開催	○	△		○	継続				
各種団体と連携し、外国語通訳スタッフの育成や観光ボランティアの養成を図ります。									

# 【資料】 渋川市観光基本計画策定委員会開催経過

## 1 開催経過

	開催日	内容
第1回	平成29年 6月28日	・ 委嘱状交付、正副委員長の互選 ・ 計画策定方針について
第2回	平成29年 8月17日	・ 観光の現状と課題について
第3回	平成29年 9月11日	・ 観光に関する分析、計画コンセプト
第4回	平成29年 11月16日	・ 計画コンセプト、施策の体系について
第5回	平成30年 2月 1日	・ 計画案について

## 2 委員構成※敬称略

団体区分	団体名	委員名	備考
学識経験者	高崎経済大学地域政策学部観光政策学科	南 賢二	委員長
観光関係団体	群馬県観光物産国際協会	野口 勤	
	渋川伊香保温泉観光協会	大森 隆博	副委員長
	伊香保温泉旅館協同組合	福田 朋英	
	伊香保温泉石段振興会	半田 正博	
	渋川青年会議所	永井 廣隆	
交通運輸関係団体	東日本旅客鉄道高崎支社	原田 一郎	
	日本中央交通	生方 博	
	関越交通	阿部 正治	
	ジェイアールバス関東長野原支店	高宮 孝一	
農業関係団体	北群渋川農業協同組合	加藤 幸永	
	赤城橋農業協同組合	和田 浩幸	
物産関係団体	渋川地区物産振興協会	今井 健介	
関係行政機関	群馬県観光局観光物産課	吉田 功幸	
	群馬県北群馬渋川振興局	高橋 正人	
	渋川行政県税事務所		
公募市民	市民	金子 昌弘	
	市民	樋田 映次	

第2次渋川市観光基本計画

発行日：平成30年3月

発行：渋川市

編集：商工観光部 観光課

〒377-8501 群馬県渋川市石原80

電話：0279-22-2111（代）